

総務文教・産業建設常任委員会合同所管事務調査報告

ほっかいどうそうべつちよう こども しざつ ほくとし はつでん し せつけんしゅう
 「北海道壮瞥町・子供センター視察：北斗市バイオマス発電施設研修」

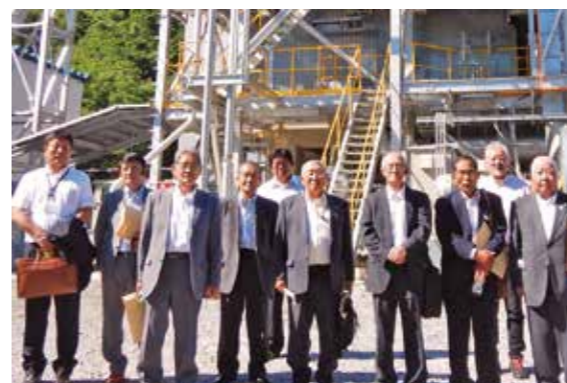
人口減少対策として移住定住促進に力を入れている北海道壮瞥町は、農業と観光の町で人口は約 2,370 人。本町と同じく高齢化率 40%を超える過疎化が進む町ですが「子どもは地域の宝」とのことで条例を制定。保育所施設場所は幹線道路にも近く、広い敷地の中で、複合型の子育て総合施設（保育所、子育て支援センター、児童館、児童クラブ）があり、親の就業と安全にも配慮した施設となっています。本町の保育所改築の際は現在の保育所園庭を地域の公園として開放し、新たな用地の選定を含め、学童、保護者、住民目線に配慮した改築計画が進められることが必要と感じました。

また、北海道北斗市にある木質バイオマスで発電事業を運営する「北斗バイオマス発電合同会社」では一日当たり約 84t の木質チップを使用し、一般家庭約 3,200 軒分の電力を一年間供給しているとのことで、林業や木材産業の活性化と森林整備の促進にもつながるものと思います。メリットとしては太陽光発電や風力発電と違い、燃料さえあれば安定的に発電が可能であると思います。木材の安定供給と水分率の調整などのデメリットがあるが、圧倒的な森林面積を持つ七ヶ宿町にとって、今後大いに検討の余地があるものと感じられました。

総務文教常任委員会 委員長 吉田 修
 産業建設常任委員会 委員長 梅津 政志



▲壮瞥町 そうべつ子どもセンター



▲北斗市 北斗バイオマス発電合同会社



問

不法投棄ごみ問題について

答

抑止効果の看板設置など行いたい

問

毎年春に住民ぐるみのクリーンデイがおこなわれているが、関地区から滑津間（中山）の国道沿いにプラスチックなどのごみが多い。不法投棄防止策を講じるべきでないか。

答

車窓からの不法投棄はモラルの欠如。効果的な対策は難しいが、啓発看板の設置などの取り組みをして行きたい。

問

住民の高齢化により参加できる方も減少している。この場所は関地区、滑津地区から遠い場所なので町でやれないか。

答

すべて行政に頼るのではなく美化活動は住民が基本と考える。

問

マイクロプラスチックの問題が世界的に広がっている。ダムを有する町として不法投棄対策を見直す必要があるか。

答

紫外線などで小さなプラスチック片になる前にダム湖面の流木と一緒に回収している。ダム管理署に確認したところ、現在生態系に影響や環境問題が発生している事実は無い。



▲不法投棄の現場

問

二年前から不法投棄監視員をしている。昨年は住民や鳥獣駆除隊員の通報もありひどい場所は現場写真や地図を添え報告している。担当課はどのような対処しているのか。

答

不法投棄監視員からの報告書に基づき、現場箇所を精査して優先順に撤去している。

問

自然環境を守る為、美化運動強化は大事であり不法投棄監視員と担当課との更なる連携強化が必要でないか。

答

不法投棄監視委員は総勢14名。月二回程度地区内を巡回して頂き、報告書をもとに投棄箇所を確認し11月に回収を行っている。状況に応じて不法投棄現場の確認を行うなどの連携をして参りたい。



▲長老湖からの不忘山



吉田 修 議員